

取組状況のフォローアップ

■迅速かつ確実な避難行動のための取組

- ・防災ハンドブックの更新



(その他)

- ・他河川で実施しているタイムライン検討会の傍聴を幅広く案内

■迅速かつ確実な水防活動のための取組

- ## ・洪水はん濫を未然に防ぐ対策 浸透対策



樹木伐採



- ・重要水防箇所 の 共同点検 を 実施



■効率的・効果的な排水活動のための取組

- ・災害対策用機械の操作訓練を実施



ポンプ車操作訓練



排水状況



照明車操作訓練

■水害リスク情報の周知や自助防災意識の啓発

- ・「1日防災学校」実施を支援、町主催の防災訓練に参加、避難所での感染症対策に関して情報提供。

○「1日防災学校」への資材提供(中湧別小学校)



○「避難所での感染症対策検証結果」の提供



■水防活動体制の強化

- ・ポスター掲示やリーフレット配布を通じ、水防活動の担い手となる水防団員(消防団員)の募集を行った。



⇒R3年度以降も引き続き、継続実施する

■危機管理型ハード対策

- ・生田原川にて堤防天端舗装を実施。



■水防活動の資機材整備

- ・生田原川にて防災備蓄基地のヤード造成に着手



⇒R3年度以降も引き続き、継続実施する

■洪水氾濫を未然に防ぐ対策

- ・生田原川、サナブチ川で河道掘削を実施
- ・中土場川や富美川、サナブチ川で伐木等を実施



⇒R3年度以降も引き続き、継続実施する

■監視体制の強化

- ・水害リスクの高い箇所に、危機管理型水位計を設置 【4箇所】(サナブチ川、丸瀬布川、支湧別川、富美川)



■ 避難情報、警報等をわかりやすく、適切なタイミングで確実に伝達するための取組

- 大雨特別警報から警報等に切り替える際、河川氾濫の危険性が高い状態が継続する場合において、引き続き河川氾濫への注意・警戒を呼びかける防災気象情報の発表を開始しました。
- 非降水エコーに伴う異常値による大雨危険度分布通知を抑止する対応を開始しました。

湧別川洪水予報(臨時)
令和〇年〇月〇日〇時〇分
網走開発建設部 網走地方気象台 共同発表

「網走・北見・紋別地方の大雨は峠を越えたが、河川の増水、氾濫はこれから」

網走・北見・紋別地方の大雨は峠を越え、大雨特別警報は警報に切り替わりますが、[湧別川の洪水はこれから警戒が必要です / 紋別地方などに降った大雨による洪水が、これから湧別川の下流に到達します]。天候が回復しても、氾濫が発生するおそれがあるため、洪水への一層の警戒が必要です。

■ 湧別川 では、 氾濫発生情報(警戒レベル5相当情報) を発表中です。

河川名	水位観測所	水位状況	今後の見込み
湧別川	えんがる 遠軽 (紋別郡遠軽町)	氾濫発生中	浸水範囲の拡大に注意
湧別川	なかゆづべつ 中湧別 (紋別郡湧別町)	氾濫危険水位超過	水位上昇中

発表中の指定河川洪水予報は下記のサイトからご覧いただけます。
川の防災情報 <https://www.river.go.jp/>
気象庁HP <https://www.jma.go.jp/>

問い合わせ先
水位関係：国土交通省 網走開発建設部 治水課 tel:0152-44-6445
気象関係：気象庁 網走地方気象台 tel:0152-43-4348

河川氾濫への注意・警戒を呼びかける防災気象情報

■ 避難情報、警報等をわかりやすく、適切なタイミングで確実に伝達するための取組

- 他河川の水害タイムライン検討会に参画しました。



常呂川下流地区水害タイムライン検討会 (第6回)

⇒R3年度以降も引き続き、継続実施します

■ 水害リスク情報の周知や自助防災意識の啓発

- ・ 遠軽町主催の遠軽町主催の災害対策本部図上訓練に参加
- ・ 1日防災学校や防災授業の実施に協力(湧別小、遠軽丸瀬布小)



⇒R3年度以降も引き続き、継続実施する

■ 水害リスク情報の周知や自助防災意識の啓発

- ・ 「eラーニング形式の学習教材」を用いた関係機関との連携
コロナ禍によるリモート指向を背景に、各自治体・関係機関等が「我が町感」を持ち積極的に活用することを目的に本教材の補足・解説資料を、網走開発建設部、オホーツク総合振興局、北海道警察北見方面本部、北海道網走南ヶ丘高等学校と協働で作成しました。



⇒R3年度以降も引き続き、継続実施する

■迅速かつ確実な避難行動のための取組

- ・関係機関との意見交換会等を通じて情報等を共有するとともに、「タイムライン」等に基づく、自衛隊の行動を検証



関係機関との意見交換を実施



検討風景

引き続き関係機関が参加する意見交換会等を通じて**情報共有等を図るとともに、必要に応じて自衛隊の行動に係る検証を実施**

- ・紋別市総合防災訓練等の関係機関主催の訓練等に参加し、装備品展示、野外炊事等を通じて自衛隊の能力及び防災に対する理解を促進



関係部外機関との連携強化



救難活動にかかる図上検討



搜索救難活動を訓練

引き続き**関係機関主催の訓練等に参加して自衛隊の能力及び防災に対する理解を促進**

■迅速かつ確実な水防活動のための取組

- ・計画的に各種訓練等を実施して練度の維持・向上を図るとともに、定期的に非常呼集訓練を実施して即動態勢を点検



偵察用ボートを使用した漕舟訓練



訓練における救命具の準備



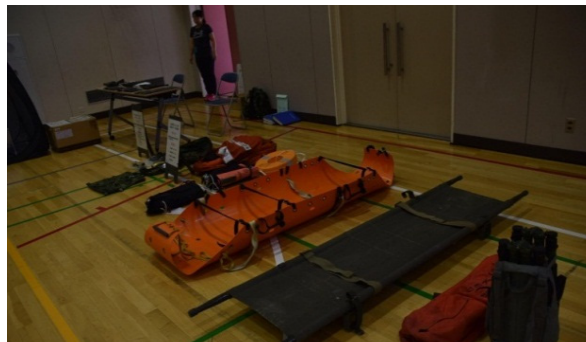
災害等に対する即動態勢を保持

引き続き**計画的に訓練を実施**するとともに、**即動態勢を保持**

- ・各結節を捉えた各種器材の整備（機能点検）・取扱い教育を実施して災害等の事態に万全を期するとともに、気象・天候に基づいた災害見積等を各隊員に教育



人命救助システム（車両積載時）



人命救助システム内容品（抜粋）



災害見積等を各隊員に教育

引き続き**各結節において整備（機能点検）・取扱い教育を実施**するとともに、**気象・天候に基づいた災害見積等を各隊員に教育**

■迅速かつ確実な避難行動のための取組

○ 北見方面本部

- ・ 水難救助訓練の実施



○ 北見方面本部及び遠軽警察署

- ・ 網走地方気象台と連携した教養セミナーの開催



北見方面本部



遠軽警察署

○ 遠軽警察署



ミニ広報紙や各種講話を
通じて防災意識を啓発

(その他)

- ・ 自治体が主催する防災訓練に参加した。
(北見方面本部、遠軽警察署)
- ・ 常呂川下流地区水害タイムライン検討会に参加した。
(北見方面本部)
- ・ 大雨、河川の水位、天候の見通し等について、関係
機関と情報共有を図った。(北見方面本部、遠軽警察署)

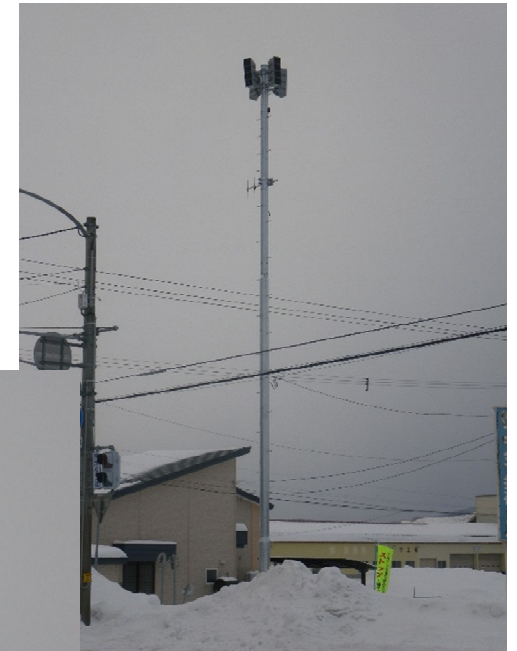
⇒R3年度以降も引き続き、継続実施する

■迅速かつ確実な避難行動のための取組

○非常災害時における情報収集・伝達手段の機能向上

・R 2: 防災行政無線デジタル化の整備

〔 固定局1局、半固定局1局、中継局1局、車載局28局、携帯局22局
屋外拡声スピーカー11箇所 〕



○防災資機材の整備

- ・避難所用の可搬型ガソリン発電機の整備
- ・防災対策用の照明機器等の整備

ガソリン発電機(1.8kVA: 4台)



LED強力懐中電灯(40台)



ハロゲン500W投光器(10台)



⇒R3年度以降も引き続き防災備蓄品の整備・更新を実施する

■迅速かつ確実な避難行動のための取組

- 防災意識の啓発
 - ・1日防災学校の実施(小学校)



1・2年生:防災カルタ



3・4年生:避難所体験



5・6年生:災害のメカニズムを学ぶ

・「自然災害伝承碑」を国土地理院地図に掲載し災害教訓の周知・普及

碑名	水天宮の跡
災害名	明治31年洪水 (1898年9月6日～8日)
災害種別	洪水
建立年	昭和59年
所在地	湧別町北兵村一区78-1
伝承内容	明治31(1898)年9月6日から8日にかけて全道的に発生した大豪雨は、各河川で氾濫となった。湧別川の増水は4.6mに達し、現在の紋別市を含む紋別郡では1273戸が浸水、29戸の家屋が流出し、13名の尊い命が犠牲となった。この碑は、この大洪水で大被害を受けたため、兵村の安全を祈願し、この地に水天宮を祀ったことが記されている。



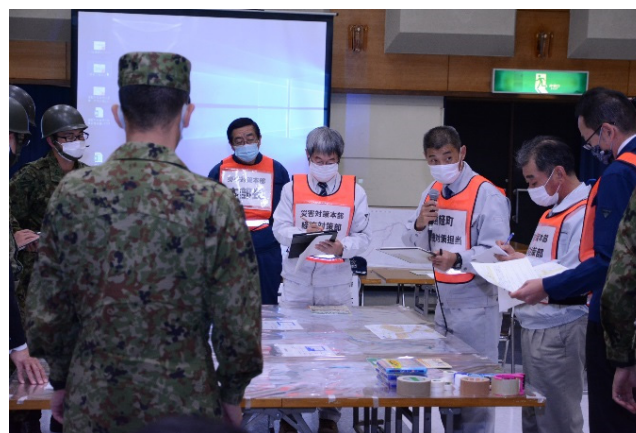
⇒R3年度以降も引き続き、防災学校を継続実施する

■ 迅速かつ確実な避難行動のための取組

○ 水害リスク情報の周知や自助防災意識の啓発

◇ 住民が参加した水災害避難訓練、水防災に関する講習会・ワークショップ、小中学生への防災教育、湧別川流域ほか、水害特性を踏まえた広報活動を実施する

- ・ 災害対策本部図上訓練の実施



- ・ 網走気象台職員の協力を得て1日防災学校の実施(丸瀬布小学校)



■ 迅速かつ確実な避難行動のための取組

○ 防災活動のためのハード整備及び有効活用 of 取組

- ・ 防災行政無線のデジタル化整備実施(令和元年度～2年度整備)

見晴山上基地局(元年度)



生田原総合支所基地局(元年度)



白滝天狗平基地局(2年度)



丸瀬布金湧山基地局(2年度)



■ 迅速かつ確実な避難行動のための取組

○ 防災活動のためのハード整備及び有効活用 of 取組

◇ 防災拠点代替施設の検討を継続

遠軽町芸術文化交流プラザ(R4年度完成予定)



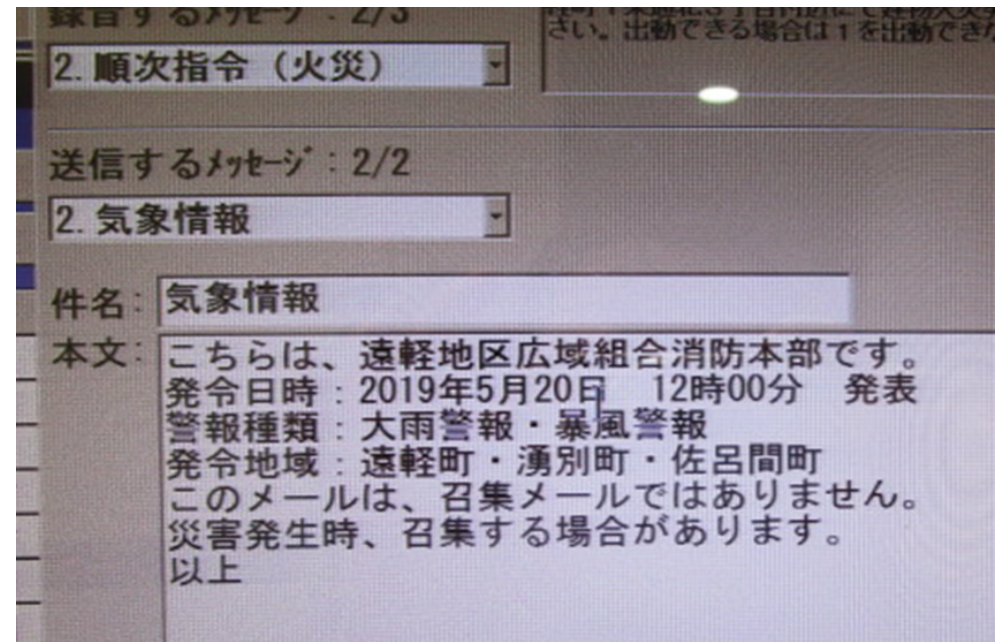
○ 洪水に対してリスクの高い箇所と、避難場所・避難経路の把握

◇ 想定最大規模の降雨による浸水想定区域に基づいた、ハザードマップの作成、まるごとまちごとハザードマップの検討

- ・ 新たに道管理河川の浸水想定区域が公表されるため、ハザードマップの更新予算を計上
- ・ まるまちハザードマップについては検討を継続

■避難情報、警報等をわかりやすく、適切なタイミングで確実に伝達するための取組

- ・災害時に消防職・団員を招集する消防指令システムの機能で、電話とメールにて災害の発生情報と招集を行うものです。
- ・このメール機能を使って、大雨・暴風・暴風雪警報等の情報伝達を行っています。



⇒R3年度以降も引き続き、継続実施する

■水防活動に必要な情報の共有

- ・迅速な水防活動を支援するため、水防資機材等の保有状況の情報を共有しておくとともに、定期的な資材の状態点検を行う
- ・毎年、重要水防箇所の見直しを行い、水防団や住民が参加する水害リスクの高い箇所の共同点検を実施するとともに、土地勘や経験の乏しい人員にも分かりやすい巡視マップの作成及び定期的な情報共有を行う

・一級河川水防連絡協議会地方部会が実施する合同巡視に参加し、資材ヤードの水防資機材や漏水・法崩れの恐れがある箇所、工事箇所を消防職・団員で確認した。



⇒R3年度以降も引き続き、継続実施する

■水防活動体制の強化

- ・水防活動の担い手となる水防団員(消防団員)の募集(リーフレットやHPを通じた広報活動)や水防協力団体の募集・指定の促進
- ・不特定多数の人が出入りする場所に、消防団員募集ポスター掲示の協力依頼。
- ・消防団幹部を中心とした募集活動、事業所への声掛け。



⇒R3年度以降も引き続き、継続実施する